

青梅市の公共施設 貸し出し

屋上で太陽光発電

再生可能エネルギーの利用と低炭素社会づくりを進めようと、青梅市は二十二日、電子部品製造販売業「ティー・エス・ピー」（調布市）と、太陽光発電設備を設置するため小中学校などの公共施設の屋上を活用する協定を結んだ。来年三月をめどに市内四施設の屋上に太陽光発電設備を設置する。災害時など施設への電力提供が停止した際、屋上で発電した電気をその施設に無償提供する。

（萩原誠）

調布の企業と協定

青梅市役所であった協定締結式で、竹内俊夫市長とティー・エス・ピーの鍋木吉一普及に取り組んでいき勇社長が協定書を交わした。

青梅市役所であった協定締結式で、竹内俊夫市長とティー・エス・ピーの鍋木吉一普及に取り組んでいき勇社長が協定書を交わした。

竹内市長は「原発に頼らず再生可能エネルギー主体に発電できる社会に向けて有意義な協定。今後いろいろ（藤橋）、泉中学校（新

町）の施設の屋上。計画では四カ所で計二千二百平方メートルの太陽光パネルを設置する。一般家庭五十軒分の発電能力があるという。それぞれの施設にリチウムイオン蓄電池を置き、昼間発電した電力をため、夜間にも利用できるようにする。設置費用はティー・エス・ピーが負担し、平時は電力会社に売電、災害時など停電時はそれぞれの施設に電力を供給する。

鍋木社長は「災害時の避難所になる施設で夜間の電力を確保できるほか、発電状況や二酸化炭素（CO₂）削減状況などをパネルで表示するので環境教育にも活用できる。大規模な送電設備を使わずに地元で発電して地元で使用する電力の地産地消にもつながる。滞りなく事業が進むよう取り組みたい」と話した。

青梅市 ティー・エス・ピー株式会社



太陽光発電のため小中学校など公共施設の屋上を活用する協定書を取り交わす竹内俊夫市長と鍋木勇社長（青梅市役所で）